

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372300453		
法人名	社会福祉法人 広虫荘		
事業所名	グループホーム ひろむし		
所在地	岡山県和気郡和気町和気108		
自己評価作成日	令和5年11月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和5年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・1人1人のペースで過ごしていただけるよう、自分で判断してもらえるように努めている。 ・面会も十分には緩和できていないため、新聞や手紙でのお知らせは継続して行っている。 ・自分の持っている力が維持できるよう、楽しみや筋力の維持向上のため生活機能向上連携で各個人に合わせた、運動や楽しみを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員が両ユニットの状況を把握できる様に、意図的に他方のユニットでも勤務する機会を設けています。ケアカンファレンスも合同で開催し、皆で意見やアイデアを出し合いながら検討しており、より良いケアを目指して取り組んでいる様子が窺えます。職員がホーム全体の状況を把握できている事を目指した運営は、有事の際における協力体制という観点からも優れている点と見受けられます。コロナ禍となり面会制限が生じた事を受けて、家族宛のお便りに日常生活の写真を多く掲載したり、入居者からの伝言を一言添える等、関係が途切れない為の配慮が窺えます。一人ひとりが自分らしく暮らせる事を大切にしており、入居者の要望に耳を傾け、本人の習慣や興味・関心のある活動(家庭菜園や草刈り等)が日々の生活に反映できる様に取り組んでいます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内の目の届く場所に掲示。年1回の研修で再確認と周知を図り、共通意識が持てるようにしている。	掲示への意識を保持する為、掲示場所を定期的に変更する工夫をしています。理念に沿った事業所の年度目標を作成しており、理念が実践に繋がる様に取り組んでいる様子が窺えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染対策で実施できていなかった、地域ケアカフェを再開。まだ地域には拡げられていないが少しずつ戻していく予定。	地域住民との交流の場の一つであった地域ケアカフェに関して、現在は規模を縮小して法人内の入居者を対象に活動を再開しています。	感染症の状況を踏まえながら、以前の様に地域住民も参加し、入居者と地域との交流の場となる地域ケアカフェが再び実施出来る事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月ほほえみ新聞を作成し、配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染対策で、保険者への議事内容の提出だけとなっていたが、今年度6月から再開。委員の方から意見、助言を頂き、サービスにつなげている。	地域の関係者や薬剤師等、多くの関係者が出席して意見交換を行っています。堅苦しくない雰囲気を中心、参加者全員が発言しやすい様に進行に努めている様子が窺えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や地域密着サービス連絡協議会に参加し、各事業所と意見を出し合ったり、情報交換を行っている。	現在、地域密着型サービス連絡協議会はオンライン形式で開催しており、意見や情報の交換を継続しています。町役場の担当者とは必要時に連絡を取り合い、ホームの実情を伝えるように取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回の内部研修で再確認し、身体拘束につながらない取り組みを行う。気候のよい日は、換気の意味も含めて扉の鍵を開けるようにしている。	玄関はオートロック機能にて、昼夜とも施錠しています。入居者が外に出たいと希望した時には、職員が外の散歩に付き添う等、行動を制止せずに本人の気持ちに沿った支援を行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回の内部研修を行い、事故報告やヒヤリハット報告から、状況確認を行い、虐待防止につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性については、常に意識しているし、上司に相談しながら勧めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文面を作成し説明し、必ず同意書に署名捺印を頂いている。必要に応じてその都度対応し、納得、安心を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、面会時の声かけや手紙でのお知らせで聞き取っている。又、サービス計画書作成時にも、利用者、家族の意向を反映するようにしている。	入居者には日常会話の中で意見要望を聞き取る様に取り組んでいます。家族には面会時や電話にて意向を伺うように努めています。脳トレを取り入れる等、要望を運営に反映させている様子が窺えます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や運営会議で、意見を出し話し合いを行っている。又日頃から気づいたことを声に出してもらうようにしている。	ボトムアップ型の運営を心掛けています。職員の意見を踏まえ、事業所の年間目標を設定している点や、職員の声から委員会を新設する等、職員の意見や提案を運営に反映させている事が見受けられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	相談できる上司と随時話し合いの場を持っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にはなかなか参加できていないが、内部研修は毎月行い実習も含めて技術の取得、向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着サービス連絡協議会に参加し、時には研修も行き、他事業所との連携を図るとともに、他事業所の意見を自事業所の取り組みの参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接による情報収集や、アセスメントにより状態、状況を職員間で共有。そこからよい関係が築けるよう努めながら、サービス提供している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面接や初回のサービス担当者会議で家族の言葉に耳を傾け、言葉に現れないところも拾えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居までに、本人や家族と面会し、会話の中から、ニーズや意向をサービス計画書に反映させている。又、意見や意向を聴きながら施設の生活状況を伝え、その中から必要なことの支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	どうしてもサービスを提供してしまうことが多いが、出来る範囲でもらったり、一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意向や思いをサービス計画書に反映。毎月の手紙で様子を伝え、変化にも気づいてもらえるようにし、必要なことは家族に依頼し、関わりを持てるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染防止のため外部との接触が難しいため、昔話や身近な景色の散歩等で思いが途切れないように努めている。	感染症流行以降、家族宛のお便りに生活の様子が分かる写真掲載を充実させた取り組みを行っています。また、入居者自身にもコメントを求め、職員がお便りに代筆する等、関係が途切れないように支援に努めている様子が窺えます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや日常の家事の手伝い等の中で、仲間意識やふれあいが持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時には、何かあれば声かけをしてもらえるよう伝え、終了後も、次事業所での様子を確認したり、関わりが継続できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別対応を基本とし、本人に尋ねたり日常会話の中から拾えるようコミュニケーションを図り、思いが反映できるように努めている。	個別に関わりを持てる場面(入浴介助等)でのコミュニケーションの時には真意や思いを把握する様に努めています。家庭菜園や草取り等、入居者の意向に添った馴染みの生活と家庭的な活動が見受けられます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話を聞いたり、関わりが合ったケアマネ等から、情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活機能向上連携だけに限らず、日々の記録や生活の中で1日1日の様子や能力の変化に気づけるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を元に、訪問看護師、理学療法士、管理栄養士と相談しながらカンファレンスで話し合ったり、必要に応じてアセスメントを行い、サービス計画書を作成している。	多職種が関わり、多角的な視点で介護計画を作成しています。介護職員はホームの全入居者のカンファレンスに参加する事を基本としており、様々な意見やアイデアを計画に反映させる様に取り組んでいる様子が窺えます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人行動表、水分、入浴、排泄、バイタルチェック表へ様子や気づきを記入し、職員間のコミュニケーションで情報の共有を図ると共に、介護に活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族への手紙や電話他からのコミュニケーションや利用者との会話からニーズを把握し、職員、医療、他事業所との連携、相談を含め、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症防止のため、外部から入ってもらうことは難しく、専ら医療と家族の関わりで特に家族との繋がりは面会に係わらず、関係性が保てるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望の確認と、入居前のかかりつけ医にも確認し、訪問診察、訪問歯科、協力病院への受診の付き添いをしている。	本人や家族の希望に沿ってかかりつけ医を決めています。本人と家族だけで受診をする場合、情報書を事前に医療機関に送付しており、適切な医療が受けられるように支援している様子が窺えます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護や協力病院の看護師に、連絡・相談し受診に繋がられるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問看護師を通して状況確認をしたり、医療連携会議での情報提供、病院の相談員に確認を行うなどしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合のことは入居の時に、本人家族とともに考えていくことを説明。関係者と協力しながら支援するようにしている。	入居時に意向を確認するだけでなく、入居後の生活の中でも重度化や終末期に関する意向を、本人との会話の中で確認しています。方針はチームで共有し、協力しながら支援に取り組んでいる様子が窺えます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回の研修と、対応手順については、見るところに貼っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を行うと共に、災害時のマニュアルに添い、防火管理者の指示を得ながら、行政や地域の協力をもらえるよう整えている。	年2回、法人全体で避難訓練(火災想定)を実施しています。ホームはハザードマップ上、水害と土砂災害の警戒区域にあたっており、自然災害への備えをより整備していく事を検討中です。	自然災害発生時、職員が落ち着いて避難誘導できる様に地域との協力体制の構築と、実践的な避難訓練の取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、個人的な内容など居室内で伝えたり、他者に聞こえないよう配慮している。	入居者からの要望にすぐ答えられない場合、その理由と対応できる時間を伝える様に心掛けており、人格を尊重した関わりが見受けられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に直接確認したり、積極的に自分の気持ちを伝えられない方には、日々の会話や行動の中から拾い上げられるように務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大事にし、リズムが崩れないように、臨機応変に業務の流れを変更し、希望に添えるような対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居前に使用していた、基礎化粧品や好の衣類など家族に相談し、持参をお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前の台拭き、盛り付け、お盆拭きなど、無理の無い範囲で、出来ることに一緒に参加してもらっている。	栄養士が献立を立てており、栄養バランスの良いバリエーション豊富な料理を提供しています。食膳の台拭きや盛り付け、お盆拭き等の作業は、日常的に職員と入居者が一緒に行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と連携し、個人に合わせた食事の提供を行っている。毎日、食事量、水分量を記録している。少ないと思ったときには、検討し対応するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけ、誘導したり、ホール席でうがい歯磨きを行っている。希望者には訪問歯科による口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、個人のタイミングを確認し、声かけや誘導を行っている。排泄担当を中心にその人に合ったパット等使えるようにしている。	可能な限りトイレでの排泄を促しています。おむつやパッドは排泄委員会の担当職員を中心に、一人ひとりに最適な排泄用具の選定を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問診療、訪問看護で相談等行い、水分補給や運動離床を心がけている。水分摂取量が少ない方には家族に相談し好のみの物の持参をお願いしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本の入浴日(月～土)で週2回以上としているが、本人の希望に沿って出来るだけ入浴できるようにしている。	日によって午前のみ、又は午後のみ入浴時間を設定しているが、本人の希望に沿って柔軟に対応しています。入浴時は職員と会話をしたり、一緒に唄を歌う等、リラックスできる様に取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を確認しながら、日中でも自室で休んでもらう時間を作っている。使い慣れた、枕や布団等使用し安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師(居宅管理指導)と連携を図り、相談、説明を受けている。又状態の変化を訪問診療で報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活機能向上連携でもPT・OTと相談し残存機能を生かせるように、アセスメントから意欲の向上、役割を見つけられるよう関わっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人から戸外へ出たい希望があれば、出来るだけ対応している。季節の花を見たり、川の魚を見に行っている。気温を確認し、ベランダに机と椅子を用意しお茶会を開いたりしているが、コロナ感染対策で地域の協力も、出かける場所も今は厳しい状況。	天候の良い日はホーム周辺の散歩に出掛け、四季を肌で感じられる様に取り組んでいます。感染症対策の為に外出行事は見合わせていますが、楽しみのある暮らしを目指し、内部行事に力を入れて取り組んでいる様子が窺えます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時、本人家族の希望で、安心のため、少額所持している人もいますが、買い物は行っていないので、所持しないようにお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を所持している方は、居室内で連絡を取っている。事前に家族より葉書を預り家族と葉書のやりとりをしている方もいる。毎年事業所からの年賀状、本人から家族への年賀状は喜ばれる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンや窓を開け、外の空気を取り入れたり、エアコンの使用もしているが、外気で寒さも感じることもある、そこで季節を伝えるなどしている。音や光が刺激とならないように配慮している。季節がわかりやすいように壁画等で工夫している。	意図的に外気を取り入れたり、季節間のある壁画を掲示する等、建物内に居ても四季を感じられる工夫が見受けられます。職員間の業務に関する会話は、場所を選んで話し合う等、入居者が共用空間で心地良く過ごせる為の配慮が見受けられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人間関係にも配慮しホールの席を変えたり、近くの席でお喋りを楽しんでもらったりしている。ソファーを活用して状況に合わせて工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具など、できる範囲で持ち込んで頂いている。	寝具や使い慣れた家具を持ち込み、その人らしい空間となっています。入居者自身で照明器具の操作が行える様に、スイッチの紐を長く延長してベッドに取り付けている居室があり、入居者自身が自由に居心地よく過ごせる工夫が見受けられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に応じ出来る力をいかせれるよう、声かけや見守りをしながら、出来ることは自分でしてもらい、不安なく生活が出来るよう支援している。		